



豊小だより

2021.2.17



園小接続推進・中学校区教育の取組について

今年度、「園・小・中の連続した学びを実現できるよう、カリキュラムの共通理解や丁寧な移校支援を図る」ことをスクールプランに掲げ、取組を進めてきました。感染症対策の中での活動には制限が多く、計画どおりに進めることは難しい状況でしたが、子どもたちの連続した学びを保障するため、豊小学校区にある3園（昭和幼稚園、はちまん子ども園、鹿苑こども園）及び明倫中・木田小とともに取り組んできたことを報告します。



【園小接続推進の取組】

園小接続推進の取組は、新入生がスムーズに小学校生活をスタートできることをねらいとして、県内すべての園と小学校で行われています。本校では、前述の3園の保育士と1年担任、教頭が参加する「園小接続推進会議」を年に3回実施しています。そこでは、育てたい子どもの姿を共通理解し、それぞれの園での学びや小学校に入ってから学びを一覧表に示すことで、各校園で学びのつながりを意識して連続性のある指導ができるようにしています。また、交流活動を計画・実行し、成果や課題について話し合う場にもなっています。

例年の交流活動では、9月に校内体育大会の見学訪問、11月に「みのり秋のフェスティバル」（1年生がグループに分かれて、八幡山など学校周辺で見つけた木の实を使った遊びを考え、園児に楽しんでもらう活動）をしてきました。また、2月には「わくわく交流デー（体験入学）」として、1年生がなわとびやコマ回しを教えたり、教科書を読んであげたりして、学校生活の様子を伝える活動をしてきました。

しかし、今年度は感染症対策のため園児が学校に来る活動が実施できません。それでも、自分たちがしてもらったように小学校の様子を園児に伝えたいという思いから、その方法を教師と一緒に考えました。そして11月には、歌やクイズで学校の様子を紹介するビデオを作成し、三つの園に贈りました。また2月には、学級ごとに1日の学校生活を一人1枚絵と文章で表現し、25枚ほどの紙芝居に仕上げそれぞれに届けました。

2月10日に行った「第3回園小接続推進会議」では、「ビデオを園児が喜んでみていたので、何度も繰り返してみせました」「歌が園で歌っているものと同じだったので一緒に口ずさんでみていました」などの園児の様子が報告されました。また、「紙芝居の言葉が園児に分かりやすく、学校生活の流れのイメージがもてました」「紙芝居を見せたので、小学校で頑張りたいことの発表にうまく繋げることができました」といった成果も報告されました。

1年生にとっては、できるだけ分かりやすく伝えたいと、相手を意識して表現する方法を学んだり、学校生活を振り返って自分の成長を確認したりする場になりました。また、ビデオや紙芝居という形あるものに表現することで、自分の学びの足跡を確認することもできました。コロナ禍だからこそできた活動によって、園・学校の双方が新たな成果を得ることにつながりました。



*豊小だよりは、本校のホームページからもご覧いただけます。右のQRコードからアクセスできます。→



【中学校区教育の取組】

明倫中学校区では、

- 主体的・対話的に学び、知識・技能を活用することができる児童・生徒
- 他者と協働しながら価値を創造し、自分の思いや考えを表現することができる児童・生徒
- 地域との連携を通して自分の夢や希望を明確にし、実現しようと努力できる児童・生徒



の三つを目指す子どもの姿として、3校の教員がそれぞれ「授業づくり部会」「夢を育む生き方部会」「子ども支援部会」に分かれ、取組を計画・実行しています。例年であれば、3校の教員が一堂に会したり、部会に分かれて各校の取組について情報交換したりする場を年に3回実施していましたが、今年度は各校の3部会の運営委員のみが集まり、活動計画の相談や情報交換を行いました。

「授業づくり部会」では、主体的・対話的で深い学びにつながる授業の在り方

「夢を育む生き方部会」では、地域に根ざした学びを通して、郷土への愛着や夢を育む教育の在り方

「子ども支援部会」では、子ども理解の充実を図り、気がかりな子どもの支援の在り方

について、それぞれ研究実践を進めました。

「授業づくり部会」では、感染症対策を行った上で主体的・対話的で深い学びにつながる授業が実現できるアイデアを交換したり、部員が各学校の授業を参観したりして、一人一人の授業改善につなげました。

「夢を育む生き方部会」では、地域行事への積極的参加を促すことと、学校間における作品等の交流を行うことを計画しましたが、ほとんどの地域行事が中止になったので、本校では校外学習や地域に関する自主学习などで書



いたワークシートに「福いいね!」のシールを貼って掲示する取組を行うことにしました。この掲示板については本紙の12月号でもお伝えしました。「福いいね!」とは、福井市が北陸新幹線福井開業後に向け、市の認知度・イメージ向上を図るため制作したイメージロゴのことです。

「子ども支援部会」では、自己肯定感を高める実践や個別対応を大切にした実践を進めました。本校では、人権週間に互いの良いところを書く取組を行ったり、班の自主学习のノートを交替で書く活動を行ったり、たてわり活動で下学年に教える活動を設定したりすることで、自分に自信をもてるようになった子どもが増えました。

また、中学校区教育の取組として3校の子どもたちの交流活動があります。その一環として、明倫中学校に進学する6年生が学校説明会に参加しました。昨年度までは、6月に「合唱フェスティバル」が開催され、互いの合唱を聴き合う会があったのですが、今年度は実施できませんでした。6年生にとっては、初めて最後の中学校訪問の日となりました。始めに、体育館で生徒指導主事から学校生活の流れや決まりなどについてお話を聞いた後、クラス毎に体験授業を受けました。例年なら、子どもたちにアンケートを行って興味・関心のある教科の授業を受けることができるようにしていたのですが、今年度は学校間の接触を避けるため、1組は社会、2組は数学、3組は音楽の授業を受けることになりました。最後に、体育館に戻って生徒会執行部の先輩の話を聞きました。たった半日でしたが、子どもたちは中学校生活がイメージでき、期待感が高まったようでした。

